

ツバメ

巣作りからヒナの巣立ちまで

54期生

I テーマ設定の理由

私は、小さい頃から動物が大好きである。何か動物を飼いたいと思っていたところへ、6月の初めツバメが巣を作り始めたから私はうれしくて飛び上がってしまった。なぜなら、ツバメが巣を作れば毎日見れるし生活を共にしているような気になれるからだ。それによく見ていると、電線にとまっているツバメのしぐさがとてもかわいいのである。私は、ツバメのことをもっと知りたいと思った。

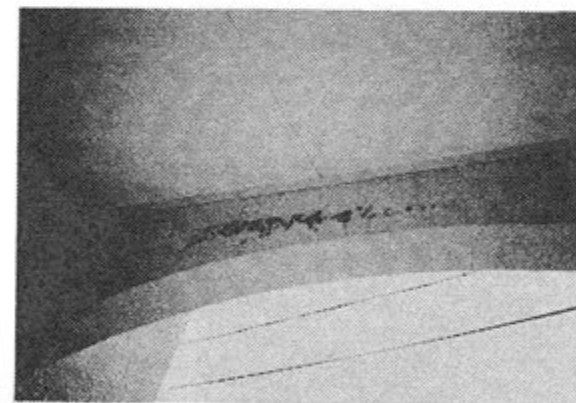
II 研究方法

毎日の観察が中心で、たまにスケッチをしたり写真を撮ったりする。

III 研究内容

1. 巣作り

6/1(木) 私が学校から帰って来て母に最寄りの駅までむかえに来てもらった。車の中で母は「今日はとってもうれしいビッグニュースがあるよ。家の中に入るまでにわかること。」と言って、とてもうれしそうにしていた。私は、なんだろうと思い玄関に来てみると下に土やわらがたくさん落ちている。ふと上



を見上げると、虫のふんのようなものがたくさんついていた。しかし、それは虫のふんではなく土であった。ツバメの巣の作り始めである。昔から家にツバメが来ると幸せになれるという言い伝えがあるそうだ。祖母の家には、ツバメが毎年来て巣が3つはあるという。私はこの時からツバメにとっても興味を持った。なぜ、うちに来てくれたのだろうか。今まで全くその気配も無かったのに…と思いをめぐらせているとふと思いうかんだことがあった。1ヶ月前、ツバメが来て玄関の所にわらを落としていたので巣を作ってくれるのかなと思っていたら、そのままどこかへ行ってしまっただけでそれっきりだった。もしかしたらそのツバメが本格的に作り始めたのかもしれない。少しだが土とわらを運んで来て作っているようだ。オスとメスの見分けはつかないがなんとなく分かるような気がした。つがいは、とても仲がいいようだ。

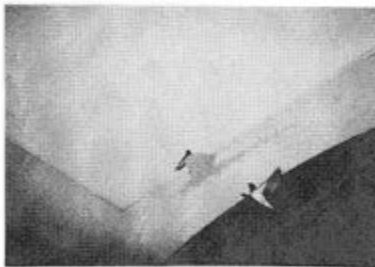
6/3(土) やっと1羽が乗れるくらいの大きさになったが、まだ卵を産むには小さすぎる。ツバメのつがいの片方が見はってもう片方が作っていた。それを何回もくり返してどんどん作り上げていく。しかし、夕方からそれぞれの行動に異変が見られた。メスが巣にとまったまま身づくろいなどをして休んでいていっこうに動かない。オスは、電線にとまってみはりをし続けている。首をいやというほど四方八方に動かして見はっている。よほど警戒しているのだろう。私が「何をしているのだろう。」と思った時、オスが飛び立ってしまった。かと思うとすぐに帰って来てメスの所で1回輪をかくように飛び、また飛んでいってしまった。しかし、また戻って来てメスの所で今度は逆から輪をかくようにして飛んでいってしまった。しばらく待っていたが、もう戻って来なかった。メスだけが巣のへりにとまっている。自分達の作った巣を他のものに取りられないように番をしているように思える。つがいにとってはなればなれというのはどんなにさびしいかと思うと、胸が痛くなる。メスのまわりで輪をかくように回っていたのは、たぶんメスへの「おやすみ。」のあいさつなのかもしれない。毎日こつこつ働いているツバメを尊敬する。早く元気なひなが誕生することを願っている。

6/4(日) とても巣らしくなって天じょうまで奥の方がついてしまった。父に肩ぐるましてもらって鏡で中をのぞいてみるとわらが少し、して見えるように見えた。昼間、屋根の上でツバメ達が鳴きながらおどっているところを見た。今夜もメスだけが巣に止まる。

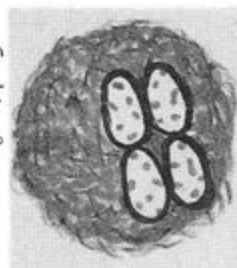


2. 抱卵とひなの誕生・成長

6/6(火) 巣は、ほとんど完成しているがまだ中の方は居心地よくはなっていないようである。2羽でわらを運んできては中にしきつめているようだった。そして、もうメスが中にすっぽり入れるくらいの大きさになった。今夜初めて2羽巣に入る。オスは巣に入る前、必ず電線に止まりまわりを見回している。日の入り時刻頃になるとメスのいる巣に近づきそのまま巣に止まる。



6/18(日) 朝、鏡で4つの卵を確認した。卵の下は、わらがいっぱいあってあった。卵は小さくて4つ巣のはしの方にかためてよせられていた。白く赤褐色の模様があるだ円型の卵だった。

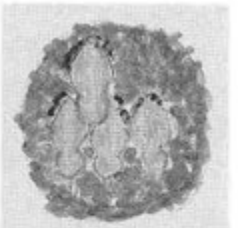


6/19(月) 昼間、オスとメスが交替で抱卵していた。

6/25(日) 夜、2羽一緒。

6/26(月) 夕方、メスが巣の中で何度もすわり直すなど様子がおかしかったので、いよいよひなが生まれるのかなと思った。

6/27(火) 朝起きると卵のからが1コ分落ちていた。ひなが生まれたのだ。鏡で点検してみると赤いひながうつぶせに4羽並んでいた。毛は、まだ生えていなかった。



6/29(木) 朝、ひなを鏡で点検した。灰色の毛が生えていた。

右図は、灰色の毛が目立つヒナ鳥。

毛と共にくちばしのあざやかな黄色も目立ち、ヒナが頭を出すようになった。



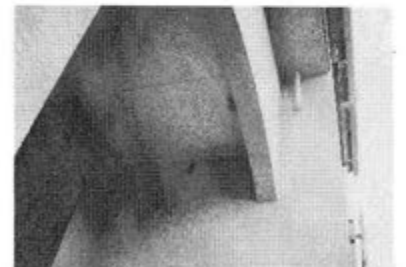
7/4(火) 親鳥はほとんど巣におらず、オスとメスが協力してえさを運んでいる。ひなのふんを親鳥が口にくわえとなりの空き地へ捨てるのを見た。巣の中を清潔に保つためである。親鳥は、そんなことにまで気を配っているのだなあと考えた。



7/8(土) ひなが生まれてから夜はずっとオスとメス2羽が向かいあって巣に止まっていたが、今夜は2羽とももどってこなかった。ひな4羽だけの初めての夜だ。そう言えば、7:30ごろ最後のエサやりに来た時ひなの声の特に大きく聞こえたのは、親鳥との別れの声だったのだろうか。

7/15(土) 親鳥は、えさを運んでは来るがすぐには与えず壁に止まり巣立ちをうながしているようだ。結局、この日一日親鳥が子供の巣立ちをうながし続けていたようだった。

写真は、壁にとまって巣立ちをうながす親鳥。

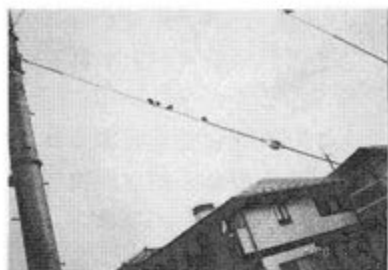


3. 巣立ち

7/16(日) 朝、夜明けと共に子ツバメ2羽が親鳥と巣立つ。尾の長さからオスのようである。巣にはまだ、子ツバメが2羽飛べずにいた。尾の長さからメスのようである。オスはメスよりも少し成長が早いようだ。

AM 8:00すぎ、巣にいた2羽のうち1羽が巣立つ。残りの1羽は1日中巣立ってずにいた。時々、兄弟のうち1羽が戻って来て巣のへりにとまり、はばたくしぐさを見せ残りの1羽に「こうすれば飛べるんだよ。」と教えているようであった。夜は4羽そろって仲よく巣で休む。今日飛べなかった1羽、明日はがんばって飛んでね!

7/17(月) 夜明けと共に4羽そろって巣立つ。これで4羽無事に巣立った。臨海訓練の間に巣立ったツバメ。なんだかとってもさびしい気がした。でも最後の1羽も飛べてよかったなあと思った。子ツバメさん達、巣立ちおめでとう！夜は「疲れた〜。」といわんばかりに巣に戻った。しかし、巣立てたことをほこらしげに胸を張っているように見えた。

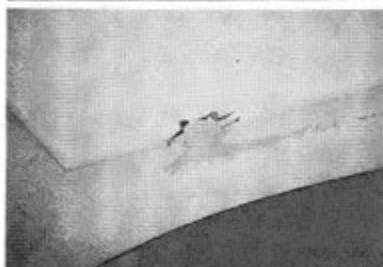


7/19(水) 昼間は巣は空っぽ。近くの電線で親にえさをもらいながら飛ぶ練習をしている。その指導は主にオスがしているように見えた。でも夜になると4羽ちゃんと巣に戻る。

7/21(金) 夜明けと共に親に連れられて、遠くまで飛んでいき夜になると必ず巣に戻ってくる。子ツバメ4羽で夜を過ごす。もう親鳥にまけないくらい大きく成長して巣から体のはみ出している。



7/22(土) 昨夜に比べ整然と並んでねているようである。もう巣離れも近くなってきたのではないだろうか。



7/23(日) 夜、3羽しかもどらなかった。もう1羽は親鳥と同じ行動ができるようになったのだ。1羽ずつ巣離れしていくのかと思うとすごく悲しい。

7/24(月) 夜、もう1羽も戻らなかった。昼間は巣の近くで2羽の親がついていろいろ教えているのだろう。子ツバメが、とても立派に見えた。

IV 結 論

(1) 巣作り

6/1～6/4の4日間で巣を完成させた。その巣作りはオスとメスが協働して行う。ふだん、めったに降りることのない地面で巣材のどろやわらを集め壁につける。どろは、だ液といっしょに固められそこにわらを混ぜて、さらにじょうぶなつくりにする。外形ができると、次は内装の仕上げにはいる。このころには、巣作りをするのはほとんどメスだけになる。巣の中で体をゆらしながら左右にいきかい、すわりごちを確かめるしぐさをさかんにする。わらをていねいにしき、その上を羽毛でおおうと完成！

(2) 産卵と抱卵

ツバメは、早朝5～6時ごろ1個卵を産みおとす。それから毎日1個ずつ6/15～

6/18まで計4個産んだ。メスは、全部産みおえてから抱卵にはいる。ツバメの卵は、細長いだ円型で全体に白く赤褐色の斑点が広がっている。抱卵は主にメスが行う。オスは巣におそろしい敵が入り込まないように警戒している。メスの抱卵中は、ほとんど巣の近くにおいて巣を見張っている。抱卵にはいつてから約15日間でヒナがかえる。その間、昼も夜も2羽の親鳥は卵をあたためつづけ敵から巣を守らなければならない。一時も安心できないのである。

(3) ヒナ鳥の誕生

抱卵をはじめて15日目の朝をむかえるころ、巣から卵のからをくわえて運び出す親鳥の姿を見ることが出来る。ヒナ鳥が誕生したのである。卵を産みおえてから同時に抱卵するためか、普通1日で全部のヒナ鳥がかえる。生まれたばかりのヒナ鳥は目もあいていなく、綿毛も少なくほとんど丸はだかである。目があき、黒い羽が生えてくるまでメスはヒナ鳥をだきつづけなければならない。

(4) ヒナ鳥が育つ

ヒナ鳥がかえると親鳥は一気に忙しくなる。おなかをすかせたヒナ達にえさを運んでやらなければならないからだ。1日目からまだ目もあかず丸はだかなのに、たよりない首をゆらしながらもち上げ本能的にえさをねだる。ヒナ鳥の大きな口の中は、鮮やかなオレンジ色をしている。この色は親鳥に訴えて、もっとえさをあげようという気分を強めると考えられている。2羽の親鳥はチームワークよく協力しあってヒナを育てていく。8日目あたりからは、ヒナをだくことはなくなりオスもメスもえさ運びに専念するようになる。そのころには、綿毛から黒い羽のがのびはじめ、まるでとげのように見える。ヒナ鳥に羽が生えてきたのである。

(5) 忙しい親鳥達

ヒナ達が1日1日と成長していく。食欲も旺盛になりえさを運ぶ親鳥も大忙し。えさは主にハエ、アブ、トンボなど空中を飛ぶ昆虫だ。ヒナの成長と共にえさも大きくなるようで、トンボやガが目立ってくる。大きなトンボもヒナは一気のみ！えさを食べた後はふんをする。ヒナが小さいうちは親鳥がくわえて運びだすが、10日もたつと自分でおしりを巣の外に出してふんをするようになる。ところで親鳥は全部のえさを公平にヒナ鳥に与えているのだろうか。ツバメをはじめ巣でヒナを育てる親鳥達はえさを公平に与えるうまい方法を知っている。それは、一番元気よく口をあけてねだるヒナにえさを与えるということ。満腹なヒナは、それほどねだることはなく飢えていればいるほど激しくねだるというりくつなのだ。

(6) 大きく育ったヒナ鳥達

17日目を過ぎるころ、ヒナ鳥は全身の羽のがのび親に似た姿になる。とげとげの頭から、すっきりした黒い頭にかわり腹も白くなる。すっかりツバメらしくなった。このころから激しく羽ばたきの練習をするようになる。はじめは2～5秒羽をうちふるわせる程度だが、しだいに回数も時間も長くなり10数秒もつづけることがある。巣の端

にとまり、巣の中をみる姿勢で練習する。食欲もますますさかんになり、いくら食べても満足できないといった感じで親鳥にえさをせがむ。22日目にはいるころ、いよいよ巣立ちの時期をむかえる。あれほど、休みなくえさを運びつづけていた親鳥が突然えさを与えなくなる。親鳥はヒナ鳥が巣立ちをするように誘っているのだ。

(7) 巣立ち

ヒナ鳥が初めて巣から飛びたった。巣立ちだ。すみなれた安全な巣を離れ、これからは空中生活者としての第一歩をふみだすのだ。「ジュク、ジュク」と激しく鳴く親鳥の声にはげまされて次々と巣立つ。巣立ちしたヒナ鳥達は、近くの電線やひさしにとまってひと休みする。それから、親鳥のあとについて安全な所へ移動していく。2～3日の間は、よくヒナ鳥達は巣に戻ってくる。すみなれた巣は、ヒナ鳥達を安心させるためだろう。しばらくの間は、一か所にじっと集まって親鳥からえさをもらったり、親鳥といっしょに飛んでえさのとり方を教えてもらったりしながら過ごす。夜は、巣に戻って休むこともあるが、一週間もするともう二度と巣には戻らなくなる。

こうしてツバメ達は、秋になると南の国へ渡っていき
春になるとまた、日本に戻ってくるのである。

V 総 括

- ① オスは、メスが抱卵している間や子ツバメがまだ巣立たずにいる時は、必ず電線にとまり周りを警戒している。そのオスが最後に巣に入る時間は日没の時間と一致しているようだ。
- ② ツバメは、人間が手を伸ばせば届く場所に巣を作るし、その人家に人の気配がない時は、親鳥がヒナ鳥のそばに夜もいることから人間を頼り身の安全を確保していることがわかる。

VI 参考文献

・小田英智・本若博次「ツバメ観察事典」借成社